



2022年9・10月号

号外 9  
2022

発行：NPO 法人 まち・すまいづくり  
発行人：竹村伍郎  
TEL&FAX：06-6779-7222  
http://www.machi-sumai.com/  
✉uemachi@machi-sumai.com  
〒543-0043  
大阪市天王寺区勝山1-11-29

二〇二三年 聖徳太子一四〇〇年御聖忌記念



新縁起

前・四天王寺 勸学部  
文化財係主任・学芸員  
一本崇之

第39回  
大阪大空襲



昭和20（1945）年3月13日  
夜遅く、274機ものB29が大阪市  
上空に襲来。空襲警報のサイレンが  
響き渡る中、焼夷弾による〃火の雨〃  
が降り注ぎました。

午前零時半頃、当時、五智光院  
近くに住んでいた牧村源三は「西門  
が危ない」との声を聞き、西門へ駆  
けつけます。すでに見真堂・引聲堂・  
短聲堂が轟々と音を立てて燃え、西  
大門の屋根にも小さな火が見えてい  
ました。その火も高所のためどうす  
ることもできず、次第に大きくなる  
のをただ見ているしかありませんでし  
た。そのうちに今度は経輪蔵に火の  
手が上がります。バケツリレーで経輪  
蔵の消火にあたりますが、数人でど  
うにかなる火ではなく、なすすべは  
ありませんでした。

石鳥居の脇には天王寺消防署があ  
り、境内火災の際にはすぐに消火活  
動を行うはずでした。しかしこの時、  
上本町で起こった空襲火災のために消  
防車がすべて出払っており、西門で  
火災が起こった時には1台も残ってい  
ませんでした。

またも低空に舞い降りるB29の爆  
音が聞こえたかと思うと、今度は伽  
藍南側に次々と焼夷弾が落とされま  
した。牧村らは仁王門へ向かい、小  
さな鬼火を踏みつぶしては必死で消火を

続けました。この鬼火は、焼夷弾か  
ら飛び散ったゼリー状の着火剤が、  
あちこちにべつとりとへばりついて、  
ちよろちよろと燃え続けていたもので  
す。この小さな火がいたる所に散らば  
り、境内にある建物を焼いていった  
のでした。



炎上する五重塔と金堂

ぐらりと東へ膝をついたかと思うと、  
一瞬、空が暗くなった。次の瞬間、  
大きな炎の浪が左右に広がって、そ  
こは一面火の海であった」（出口善子  
『笙の風』）  
壮麗な落慶供養からわずか5年後  
のことでした。

中心伽藍が燃え尽きると、今度は  
六時堂にも火の粉が降りかかり、縁  
の下がくすぶり始めますが、ようや  
く戻ってきた消防車によって亀の池  
の水で消火され、六時堂以北の堂宇  
は焼失を免れます。しかしその間に  
国宝建造物であった東大門に火の手  
が及び、瞬く間に炎に包まれました。  
中心伽藍と並んで、四天王寺の象徴  
であった桃山再建の絢爛な東大門も  
ここに焼け落ちたのです。

翌朝（14日朝）、人々が目にしたの  
は、亀の池以南のほぼすべてが焼き払  
われた無残な四天王寺の姿でした。

らくご  
ハローワーク



相羽秋夫の

第9職 夏の夜や『たがや』見得切る橋の上

は、武士の刀を奪い、「侍だ  
と思っていばるな！」と横に  
刀を払うと、武士の首がボー  
ンと宙に飛んだ。まわりの見  
物人、良くやったとばかり「た  
がやあ」。

◇  
『たがや』と題する東京の  
古典落語である。簾屋の印象  
が強い斬だが、ここでは花火  
師に注目したい。

花火には、家庭で楽しむ玩  
具花火もある。これには、吹  
き出し花火・線香花火・ねず  
み花火・かんしゃく玉などの  
種類がある。

中国の宋時代（960～  
1279年）に始まった花火  
は、14世紀後半にヨーロッパ  
に伝わり、16世紀の鉄砲の伝  
来直後に日本にも到達した。  
江戸期に盛んになり、技術の  
急速な進歩と日本独自の技法  
の発達を見せた。

火の粉・火花・煙・音を同  
時に楽しむ芸術の「花火」が、  
法律用語では「煙火（えん  
か）」という味気ない言葉に  
変わる。

花火への点火は、火傷（や  
けど）と隣り合わせの花火師  
の最大の役割であったが、現  
在ではコンピュータが代行  
している。それにつれ、業界  
の女人禁制が解けた。火遊  
びは、男も女も同権だ。

◇  
この2軒の花火問屋は、徳  
川家康の出身地三河で創業  
し、家康の招きで江戸に移住  
した老舗である。

川開きの最大行事である花  
火大会の真最中、両国橋の上  
は人でごったがえしていた。  
その人ごみの中を、桶の簾（た  
が）を作る職人が、商品の簾  
を持って通りかかる。人に押  
されたはずみに簾がはずれ、  
武士の笠をはねとばしてしま  
う。



NPO法人「まち・すまいづくり」活動報告

各種予約・お問い合わせはNPO法人「まち・すまいづくり」まで  
TEL:06-6779-7222

住まいと暮らしの  
無料相談会

9月10日・10月8日（土）  
10時～12時

大事なことなのだけど、なかなか日常  
生活では相談できない住まいと暮らしの  
「困った！」はありませんか？「住まいと  
暮らしの無料相談会」は弁護士、司法書  
士、一級建築士、税理士、宅地建物取引  
士などの当法人会員が専門知識を生かし  
ご相談に応じます。電話もしくはHPよ  
りお申し込みください。

主催：NPO法人まち・すまいづくり  
（市立社会福祉センター指定管理者）  
電話：06-6779-7222  
場所：大阪市立社会福祉センター  
（大阪市天王寺区東高津町12・10）  
後援：天王寺区役所

連載終了の  
『らくご植物園』を  
書籍化

連載31話＋追加書き下ろしの全100  
話。落語を切り口にさまざまな植物を写  
真とともに紹介。艶話としやれ言葉で相羽  
ワイルドを楽しむ痛快な1冊です。



ぜひ、書店にて  
お買い求めを。  
（税込2200円、  
東方出版）

うえまち寄席

11月5日（土）14時開演

桂佐ん吉、桂ちようばによる、上方落  
語発祥の地・上町台地にふさわしい、古  
典を中心とした落語会です。電話または  
電子チケット販売サイト「TIGET（チ  
ケット）」からも予約可能です。

場所：一心寺南会所天王寺区逢坂2・7  
入場料：2000円





二〇二三年 聖徳太子一四〇〇年御聖忌記念

四天王寺 新縁起

最終回 第40回 戦後復興から現在  
そして未来へ



前・四天王寺 勸学部  
文化財係主任・学芸員  
一本崇之

焼け野原となった境内を前に、四天王寺の人々は決してあきらめず復興への道を進みはじめます。

昭和22(1947)年8月、焼失を免れた食堂を仮金堂として金堂跡に移築し、中心伽藍北西隅には仮設の北引導鐘堂が建てられました。この北引導鐘堂はほんとうに小さなバラックのお堂でしたが、戦争で失われた大切な人々を弔うため、多くの方が供養に訪れたのでした。

その後、3年に及ぶ大規模な発掘調査が行われ、調査が終わった昭和32(1957)年から本格的に中心伽藍の再建が始まります。伽藍の復興には、藤島亥治郎・東京大学教授ら専門家によって構成される伽藍復興建築協議会が組織され、四天王寺式伽藍配置の保存を前提として、できうる限り太子創建時の姿を復元するという再建の基本構想が定められました。一方で、建築基準法の制約などから、伽藍は鉄筋コンクリート建築とすることとなりました。

昭和32年5月の五重塔地鎮祭(起工式)を皮切りに、昭和34(1959)年4月に五重塔が落慶。続いて昭和36(1961)年3月15日に金堂が落慶し、講堂・中門・東西重門・廻廊・龍の井戸が順次再建されました。そして昭和38(1963)年10

2022年9・10月号  
号外 10  
2022

発行：NPO 法人 まち・すまいづくり  
発行人：竹村伍郎  
TEL&FAX：06-6779-7222  
http://www.machi-sumai.com/  
uemachi@machi-sumai.com  
〒543-0043  
大阪市天王寺区勝山1-11-29

て、まちのシンボルとして存在し続けてきました。国宝・重要文化財といった歴史的価値を有する建造物や美術工芸品のみならず、法会や行事などの伝統も絶やすことなく継承しえた背景には、多くの篤い帰依と、四天王寺を守ろうとしてきた人々の想像を絶する努力がありました。

日本屈指の古代寺院である四天王寺が、いかにして今なおその法灯を継承し、「生きたる寺院」としてあり続けてきたのか。それは、常に衆生に寄り添う四天王寺があったこと、そして地域の人々がいかなるときも四天王寺を支援してきたこと、この相互的な関係性が1400年という途方もない時間にわたって維持されてきたからに他なりません。

「また天王寺さんに参ろか」というたくさんの方の想いに支えられながら、四天王寺はこれからもその歩みを進めていくことでしょう。(丁)



千四百年御聖忌慶讃大法会の聖霊会。

らくご  
ハローワーク



相羽秋夫の

第10職 駅伝の『明石飛脚』は元祖なり

民間でつくられたのが「町飛脚」で、脚夫を抱える飛脚問屋(飛脚屋)が元締になって、仕事をこなした。これには、大きく3コースがあり、毎日のように江戸と京・大坂を往復した「定(じよう)飛脚」。月に3度だけ往復した「三度飛脚」。この時に飛脚が被った笠から名付けられたのが三度笠だ。さらに、「順番飛脚」があった。

いずれも手段としては、駆け足や馬が主だが、船を利用する場合もあった。

「明石飛脚」という古典落語は、地名が出てくる関係で上方落語のみの珍しい嘶だ

大坂の飛脚が明石まで手紙を届けることになる。大坂・明石間15里(60km)と教えられた飛脚、尼崎まで走り続け、すれ違う人に「大坂から明石まで何里?」と尋ねると「15里」との返事。「まだ15里もあるか」と神戸まで走り、ここで同様に聞くとまたもや「15里」との答え。さらに走り続け、明石の人丸神社に着すると、疲れのため寝てしまふ。翌朝起こされ「ここはどこや」と問うと「明石や」と聞いて飛脚「寝てたほうが早よう着くがな」。

郵便制度確立後も、飛脚は「便利屋」の名でわずかに生き残るが、コンピュータの出現で、郵便も危うくなっている。通信手段も継飛脚のようだ。



郵便発祥の地にある前島密の胸像。

大人のための

文章教室

ライター・編集者 松本正行

無意味な飾りは  
つけないように

少しでもコストのほうを削減する  
努力はしますが、なかなか難しいのが実情です。

「丁寧な言葉遣いをしている」と書き手は思っているかもしれませんが、しかし、「のほう」は余計で、無意味な飾りです。むしろ、それがあつて「あいまいな言い方だなあ」と不快に思う人がいるくらいです。

少しでもコストを削減する努力は  
しますが、なかなか難しいのが実情です。

無意味な飾りは他にもあつて、代表的なのが「いく」です。「ここで製造工程を見直していきます(ここで製造工程を見直します)」と書く人がいますが、カッコ内のようにすべきです。そのほうが締まった感じがします。

「この春から営業開始の形になります(この春から営業開始いたします)」

「私自身、不得意なので自信がありません(私は不得意なので自信がありません)」

飾りをつけて「見栄え」印象が悪くならないよう注意しましょう。

上町台地上にある高津高校出身。新聞社・出版社勤務を経て、現在、Webや雑誌等で活躍中。NPO法人「まち・すまいづくり」会員。